特集

恐竜調査隊が行く

〝古生物学者の牢屋〟ブギンツァフ

岡山理科大教授・石垣忍

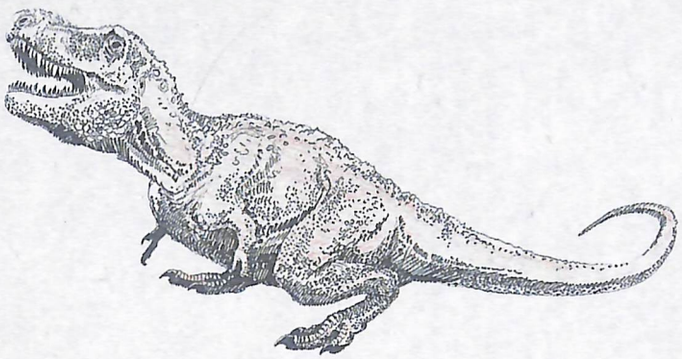
過酷な地だが化石の宝庫

「古生物学者の牢屋」。今、私たちが調査をしている、モンゴル国ゴビ砂漠西部の化石産地「ブギンツァフ」は、そんなふうに呼ばれています。首都ウランバートルから千キロ。そこにたどり着くだけでも丸3日かかってしまいます。辺りは広大な岩石砂漠。乾ききっています。

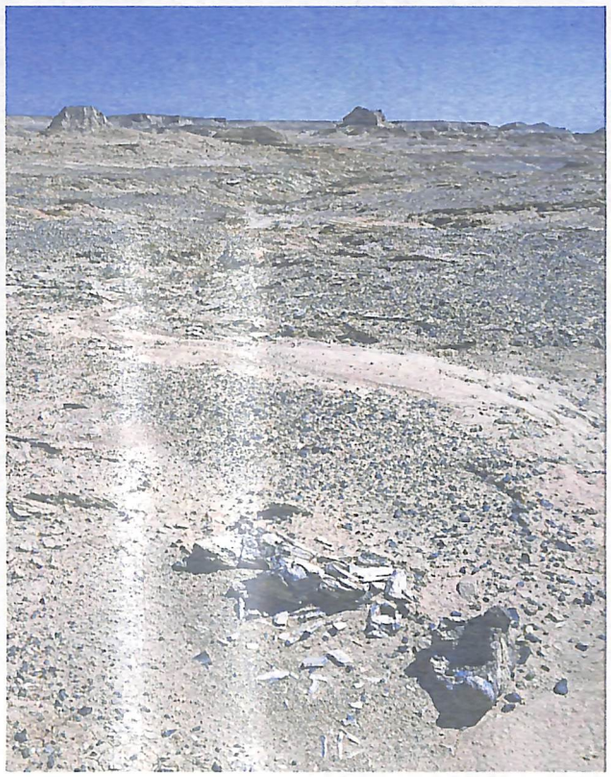
40度以上の暑さ、毎日吹く強い風、一番近い井戸まで50キロ、だれも住まない土地―。広いゴビ砂漠の中でも、こんなに過酷な恐竜化石産地はありません。仕事をするのは本当にしんどい場所。これが「古生物学者の牢屋」と呼ばれる理由です。ところが実は、ここは古生物学者にとって「天国」と言っていいぐらい夢のような場所でもあるのです。

7千万年前、この辺りは蛇行しながらゆっくりと流れる川があり、その周りには木々が茂り、恐竜をはじめたくさんの動物がすんでいました。そして川は時々氾濫を起こし、その時にたまった地層の中におびただしい量の恐竜やカメの骨を封じ込めました。出てくる恐竜化石の量は、おそらくモンゴルで一番といっていいでしょう。こんな「牢屋」だったらいつまでも入っていたい？？？

今年は、約10年前に見つけた骨化石の層を掘っています。さて、どんな成果が表れてくるのでしょうか？ その話は私たちが日本に帰るまでのお楽しみ。秋になったら発表しますからね。



ブギンツァフからはこのようなタルボサウルスの全身骨格がたくさん出ています。今年の狙い目はこの恐竜の赤ちゃんや、雄雌の違いがわかる化石。さあ見つかるかな？（絵・ビャンバーツォクト）



荒涼としたブギンツァフの景色。7千万年前。ここが緑の大地でたくさんの恐竜が暮らしていたなんて信じられませんね。手前は風化して粉々になった恐竜の足の骨化石です

豆知識

岡山理科大学とモンゴル古生物学地質学研究所の共同調査隊は何人ぐらいでキャンプするの？これは昨年の調査で全員集合した時の写真。人数を数えてみてください。

★モンゴル調査の話を聞きに行こう！★

日時：9月1日（土）10～17時

場所：岡山理科大学恐竜学博物館（岡山市）

モンゴルから帰ったばかりの石垣先生による講演と恐竜展示案内があります。

詳しくは 恐竜学博物館 で検索